

苗木育成・農業指導プロジェクト 11 月報告

— 昨日はひどい降りだった。こんな雨が續くと山は大変だ。木がないから土は流れ出し、土砂崩れがあちこちで起きる。乾季は乾季でやはり困る。土が乾いて高温になり、植えたばかりの果樹や在来種の苗が枯れてしまう —

日記風書き出しの月例報告が事業責任者ボニファシオから届きました。以下紹介します。

[11 月 12-15 日] フィタックで「持続可能な農業技術」セミナーを行った。近隣のタブロ、バルナブ、スフォの住民も参加した。みんなこのようなセミナーは初めてで興奮していた。次もぜひ参加したいと言った。リスト(省略)にある参加者44名それぞれに苗木が配布された。僕がいない時、住民の苗の様子をみてくれる村の責任者を決めた。

[11 月 16-17 日] クラオ地域でセミナーを実施した。参加者 37 人にドリアン、ランブタン、マホガニーの苗を配った。プラスチックの鉢が空いたので、今度はそれでゴムの苗木を育てる予定だ。



プロジェクトで購入したバイクとボニファシオ(アトモックで)

[11 月 19-23 日] エディ(本事業モニター助手)とキアミに行った。ここでも「持続可能な農業」研修はみんな初体験でとても喜んでいて。村には川があり、水稻栽培も可能だ。住民も意欲的なので1月には稲作技術研修を実施する予定だ。うまく

お米ができれば、果樹が実を結ぶまでの数年間、家族が食べていける。これにはカルメン・コタブトから稲作専門家のマンパレル氏を招くつもりだ。米作りで生活はずいぶん楽になるはずだ。

[11 月 28 日] バゴンシランで苗木を配る予定だったが、村のプロジェクト責任者が自分にやらせてくれといったので任せた。ここは 8 月末に 5 日間もセミナーを実施したから大丈夫だろう。

※ ※ ※ ※ ※

12 月にはサムラングで研修だ。8 月末から始まった研修は、これまでのところ毎回盛況で成果もあったが、中には遠くて参加できない住民もいた。やはり、次年度は集落単位(BCC/GKK・会報 50 号参照)でセミナーをしたい。(文責・山崎)

— 住民の感涙を 1 万人の市民に伝えたい —

— ボランティア貯金寄附金配分事業 —

子どもたちが水浴をする傍らで母親は大家族の洗濯に忙しい。水道が使えるようになったと聞いて勝手に描いていたフィタック村の風景でした。それが村に着いてみると、蛇口の周りに人は集まっているものの水の音がしません。どうやら断水ようです。

試験的通水とはいえ、すでに3週間「蛇口をひねれば水」の利便性を経験した住民たちにとって一大事です。断水は夜半に起きたようです。連絡を受けて水源近くのパイプ補修に向かったという CMIP 技術担当リコの腕を信じて待つこと 1 時間あまり。住民の間から歓声が上がりました。蛇口からは勢いよく水が出ています。まもなく泥にまみれたリコも戻ってきました。

この日の断水ハプニングはこれから管理補修に責任を持つ住民にとって格好の危機管理訓練になりました。2 月には竣工式と水道管理住民組合への水道施設の引渡しが行われることになっています。

水道修復を見届けてから、私たちは村のリーダーの家に移動しました。三々五々集まってきた住民たちは、どんなにこの日を待ったか涙ながらに語り始めました。水汲みの重労働を担ってきた女性たちの感慨はひとしおのようです。アライアンスチャーチというキリスト教一派の長老は、宗教に関係なく皆が協力した時の感動を語りました。

私たちだけで受け止めるには重過ぎるこの住民の感動と感謝を、預金利子寄附で協力下さった皆さまに伝える機会があればと考えています。ちなみに配分金 200 万は利子 200 円なら 1 万人分です。



水がでた！感触を確かめる子どもたち

<医療保健研修>安全な水の恵みを最大限生かすために CMIP 医療スタッフのジョジョとヒルダを講師に、11 月 5-8 日医療衛生研修がフィタックで実施されました。スフォの住民も入れて 46 名が参加し、子どもたち 115 人に虫下しも飲ませました。